

病院レベルの初期治療を

木沢記念病院

ドクターカーを試験運用

医師や看護師が現場へ急行する「ドクターカー」の試験運用を、美濃加茂市の木沢記念病院が可茂地区で始めた。感染が拡大する新型コロナウイルスの対応にも使う計画で、自宅療養者の増加が懸念される中、緊急性が高い重篤患者の救命に役立てる。(渡辺大地)

可茂地区で平日に出動

一一九番を受けた可茂消防事務組合からの要請に基づき、病院側が症状の軽重などから出動するかどうかを判断する。車両には酸素濃縮器や防護服、解熱剤などが積んであり、現場まで緊急走行できる。

消防の救急救命士では対応が難しい症例でも、医師が現場に出動することで病院と同等レベルの初期治療が素早く行える。後遺症の軽減も期待できるとい

う。
病院によると、ドクターカーの運用は可茂、中濃地

区では初めて。救急部門の医師らが同乗し、平日の午前八時半～午後五時に運用する。夜間はスタッフが手薄なため出動しない。

可茂地区の救急搬送の約半数を受け入れている同病院では最近、宿泊療養を控えた自宅にいる患者から救急要請を受けるケースが二件相次いだ。救急担当の山田実貴人副院長は「ドクターカーの機動力はコロナ対応にも生かせる。救える命

機動力 コロナ対応に発揮期待

木沢記念病院が試験運用を始めたドクターカー。コロナ対応にも役立てる。美濃加茂市で

を救っていく」と話す。病者が一度に出たりしたケースでも、出動を想定してが重篤だったり、多くの傷

